

未来をデザインする
MOT



RITSUMEIKAN
INNOVATION
SCHOOL

立命館大学 大学院
テクノロジー・マネジメント研究科



立命館大学大学院テクノロジー・マネジメント研究科

[お問合せ]

立命館大学 OIC 独立研究科事務局(テクノロジー・マネジメント研究科事務局)

〒567-8570 大阪府茨木市岩倉町2-150

TEL:072-665-2100 / E-mail:motkoho@st.ritsumei.ac.jp

<https://www.ritsumei.ac.jp/mot/>



2026年5月発行

RITSUMEIKAN
UNIVERSITY

Ritsumeikan Innovation School

2026年度、次なる革新へ!

2026年、立命館イノベーションスクールは、 社会を動かす「実践」のフェーズへ。

2005年、技術経営(MOT)を深く探究する大学院として産声を上げた立命館MOT。

これまで1000名を超えるMOT人材を輩出し、

日本有数の規模の技術経営大学院として確かな歩みを続けてきました。

創立20周年を経て、2025年より私たちは「立命館イノベーションスクール」として始動し、

中核概念に Futurepreneurship(フューチャープレナーシップ)を掲げました。

それは、単なる新規事業創出にとどまらず、

望ましい未来を起点に価値創造の道筋を設計し、

社会的価値を実装していく能力です。

デジタル化やAIの進展など、構造的な転換期を迎えた今、

予測不能な未来を受け身で待つことではなく、

複数の未来を構想し、現在の意思決定を再定義する

「未来起点の思考」こそが求められています。

「思考・設計・実行」を循環させ、未来を創り出す力を研ぎ澄ます場所。

理論と実践が交差するこの学び舎で、

あなたの問いを「イノベーション」へと昇華させ、

責任ある意思決定を行えるリーダーへと進化してください。

研究科概要

名称	テクノロジー・マネジメント研究科 テクノロジー・マネジメント専攻	
課程	博士課程前期課程	博士課程後期課程
学位	修士(技術経営)	博士(技術経営)
入学定員	70名	10名
標準修業年限	2年	3年
キャンパス	大阪いばらきキャンパス	

All for innovation, innovation for all.

立命館大学大学院
テクノロジー・マネジメント研究科 研究科長

湊 宣明 Nobuaki MINATO



未来を構想し、社会を動かすために
— 技術経営に Futurepreneurship という視座を —

社会は今、デジタル化、脱炭素、人口構造の変化、AIをはじめとした先端技術の進展などにより、産業や社会システムそのものが構造的な転換期を迎えています。このような時代において求められるのは、既存の市場や過去の成功事例を前提に最適解を導く力ではなく、将来の社会像を構想し、その実現に向けて価値創造の道筋を設計し、行動へとつなげていく力です。

立命館イノベーションスクールは、2025年より新しいカリキュラムを開始し、その中核概念として Futurepreneurship(フューチャープレナーシップ)を掲げました。Futurepreneurshipとは、単なる起業家精神や新規事業創出能力を指すものではありません。望ましい未来社会の姿を起点に、技術、制度、市場、組織といった複数の要素を横断的に捉え、それらを統合しながら社会的価値を実装していく能力として定義しています。

この考え方の特徴は、価値創造の出発点を「現在の市場機会」ではなく、「将来の社会像」に置く点にあります。将来が不確実であることを前提に、単一の予測に依存するのではなく、複数の未来の可能性を構想し、その中から望ましい未来を選び取り、そこから現在の課題や意思決定を再定義する。この未来起点の思考こそが、Futurepreneurshipの基盤です。

立命館イノベーションスクールの学びは、こうした能力を三つの段階を通じて育成します。

第一に、未来を構想し、問いを再定義する「思考の力」。

第二に、その未来と現在を接続する「設計の力」。

第三に、不確実性の中で試行錯誤を重ねながら意思決定し、社会に実装していく「実行の力」。

これらは直線的に身に付くものではなく、構想と行動を往復する循環的な学びとして設計されています。

さらに、これらすべての学びを貫く価値軸として、社会的価値の創出を重視しています。経済的合理性だけでなく、その意思決定が社会にどのような影響を及ぼすのかを問い続ける姿勢は、これからの時代における経営者やエンジニア、専門職に不可欠な視点です。

大学院で学ぶことは、時間とエネルギーを要する選択です。しかしその学びは、過去を分析する力に加えて、未来に向けて判断し、行動する力を鍛える機会となります。立命館イノベーションスクールは、未来を受け身で待つのではなく、未来に対して構想し、責任ある意思決定を行える人材を社会に送り出すことを目指しています。

未来は、予測するものではなく、構想し、設計し、創り出すものです。

立命館イノベーションスクールで、Futurepreneurshipという新しい価値創造の力を身に付けてください。

All for innovation, innovation for all.

(すべてはイノベーションのために。イノベーションは皆のために。)

Features 立命館イノベーションスクールの特徴

文理融合の開講科目

技術経営の基礎として、戦略論や組織論などの経営学、さらに統計、数理、ケーススタディなどの方法論について、幅広く学ぶことができる授業科目が提供されています。



実務経験豊富な教員・講師陣

メーカーや金融機関、コンサルティング会社などで実務を経験した教員が揃っています。また、現役の企業人を客員教授やゲストスピーカーとして招いており、業界を越えた知識や俯瞰的な視点を学ぶチャンスにあふれています。



多様な学生とのインタラクティブな講義

ワークショップやグループディスカッション、プレゼンテーションなど、インタラクティブな手法を取り入れています。社会人学生・留学生など多様なバックグラウンドを持つ学生同士が議論を戦わせます。



企業でのアクションラーニング(プラクティカム)

理論と実践の習得をめざして、インターンシップを発展させた「プラクティカム」を実施しています。その特徴は、企業が抱える課題に学生が取り組む「課題解決型長期企業実習」です。



クォーター制の採用

1年を4期に分けるクォーター制を導入しています。1科目あたり190分の講義を7回、約2ヶ月で履修できます。仕事と比較的忙しくない時期に集中して学ぶことが可能です。夏期集中やセメスター制で運用している講義もあります。

社会人学生のリスクリングを促進する時間割

社会人学生にも受講しやすい平日夜間と土曜日に講義・ゼミを多く配置します。さらに社会人学生には、オンラインでも受講可能なハイフレックス型の講義を展開することで、スムーズな履修・修了をサポートします。

6限:18時25分~20時00分 7限:20時10分~21時45分

複数指導教員体制

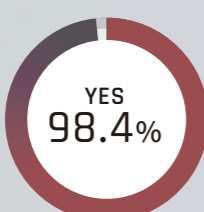
MOTの研究範囲は広範囲におよび、技術戦略、ファイナンス、知的財産、組織戦略などを複合的に考察しなければなりません。そのため、複数名の教員で指導する体制をとっています。演習指導や論文の主査となる教員以外に、複数の教員から指導を受けることが可能です。

実際、メインとなる演習に関わらず、他の演習にも顔を出す学生が多く存在します。教員同士が連携をとり、課題解決に最適な解を見出せる体制を確保しています。積極的に多様な教員のリソースを活用してください。

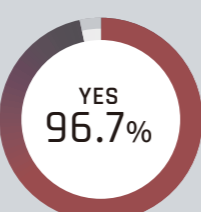
2024年9月・2025年3月修了生アンケート結果



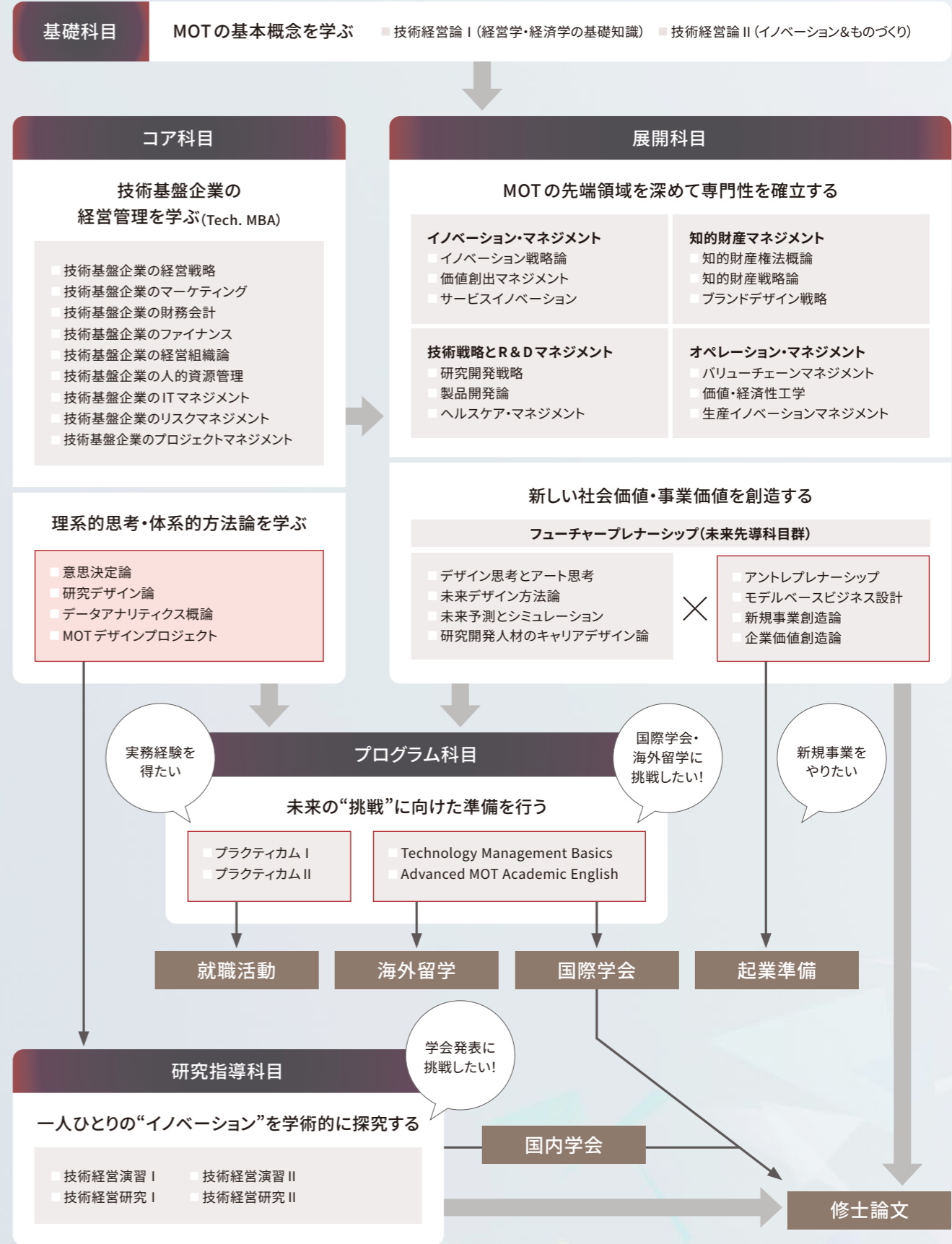
Q 大学院生活は充実していた



Q 教育全体に満足している



Curriculum カリキュラム(博士課程前期課程)



Practicum 課題解決型長期企業実習「プラクティカム」

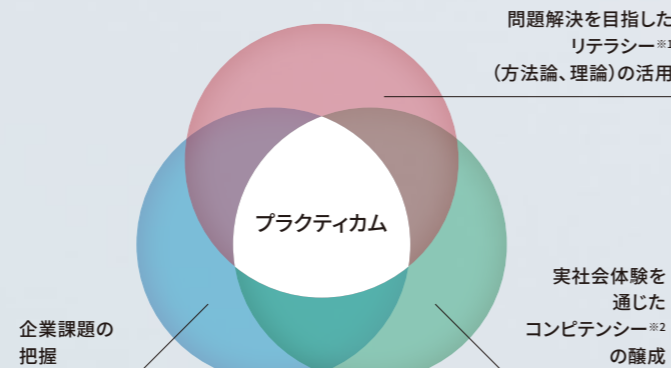
コンセプト

立命館イノベーションスクールは、「技術とビジネスを結び、新しい価値を創造する」イノベーションを主導し、新事業や新市場を創出する将来のリーダー養成を目指して、社会人学生と学部等から進学した学生が共に学んでいます。「理論と実践の習得」をめざし、当研究科ならではの实習として、インターンシップを発展させた「プラクティカム」を実施しています。その特徴は、「実習先で企業等の仕事を体験する」一般的なインターンシップとは異なり、企業が抱える課題に学生が取り組むという「課題解決型長期企業実習」です。



目指す教育効果

- 1 企業等において、どのような課題が存在し、どのように解決しようとしているかを知る。
- 2 講義で学習した理論や方法論を企業における課題解決に適用する。
- 3 企業等での課題解決の体験を論文研究にフィードバックする。



※1 知識を利用して問題解決する力 ※2 経験を積むことで身についた行動特性、判断基準

プラクティカムの特徴

課題解決型	教員の指導	長期(3ヶ月~6ヶ月)
「プラクティカム」の最大の特徴は、企業などが実際に直面している課題に講義で学習した知識を適用する「課題解決型実習」だということです。企業が解決を求める課題と学生の研究対象がマッチングすることで、はじめて成立する実習です。	立命館イノベーションスクールの教員が、課題設定、アプローチ設計、調査研究、成果の取りまとめをサポートすることで学生は高いレベルでMOTの理論や方法論の実践を体験できます。	期間が3ヶ月~6ヶ月と長いので、企業、ビジネスの実態をじっくりと知ることができ、実習先の担当者と一緒に深く関わる機会があります。

プラクティカム 協力企業 (過年度実績)	<ul style="list-style-type: none"> ■ JAXA (独立行政法人 宇宙航空研究開発機構) ■ パナソニックコネクスト(株) ■ オムロン(株) 	<ul style="list-style-type: none"> ■ (株)安井建築設計事務所 ■ 三菱電機(株) ■ (株)インダ ■ アビームコンサルティング(株) 	<ul style="list-style-type: none"> ■ ローム(株) ■ ANAホールディングス(株) ■ (株)JAL航空みらいラボ 	※一部
--------------------------------	---	--	---	-----

プラクティカムでは、実務経験豊富な企業の方々や実際の経営課題に取り組みます。私はメディア関連企業の広報プロジェクトを担当し、「優れた技術が十分に認知されていない」という課題に対し、戦略的なプレスリリースによる情報発信を行いました。特に注力したのは、技術の本質を捉えながら多くの人の関心を引くタイトルの創出です。もともと文章表現に課題意識を持っていた私にとって、単なる情報の羅列ではなく「価値を伝える言葉」を紡ぐプロセスは高度な思考を要するものでした。そこで、与えられた課題に対して、チーム設計の段階からメンバー間で目的や成果を明確にするように努めました。また、企業の担当者様・教授陣の丁寧なご指導により、多くの知見を獲得できました。ここで得た課題解決の経験を元に、社会で真に価値を創出できる人材へと成長していきます。

久保田 真史さん 博士課程前期課程2回生 立命館大学 情報理工学部情報理工学科出身



Voice 立命館イノベーションスクールを選んだ学生の声



01 より高い視座を身に付け 戦略策定や意思決定が可能に

(株) 村田製作所 シニアマネージャー
博士課程前期課程2回生
鶴 明大 さん

イノベーションマネジメントの実務を、経験則に頼るのではなく、理論と経験を融合させた体系的な形で実践したいと考え入学しました。MOTの講義は実践的で、学んだ内容を翌月には実務で応用していることも少なくありません。また、垂直統合型企業におけるイノベーション創出メカニズムの研究を進める中で、以前より高い視座で戦略策定や意思決定ができるようになったと実感しています。技術系人材は多くの場合、自然科学を深めたのちにチーム運営のための行動科学を学びますが、次なる段階として技術主導でイノベーションを実現する社会科学「MOT」を学ぶことは、大きな自己変革につながると考えています。

02 組織と個人の 変革の貢献を目指す

立命館大学 理工学部(飛び級入学)
博士課程前期課程2回生
成田 悠馬 さん

学部時代、児童福祉施設でのアプリケーション導入を推進した際、技術導入には「人の感情理解」と「経営の戦略性」が不可欠だと痛感し、飛び級で本研究科に入学しました。現在はUI/UXやビジネスデザインによる価値創出と、定量的根拠に基づくデータ分析を統合して学んでいます。また研究では、企業の戦略策定手法を個人のキャリア形成に応用し、人の想いを構造化する研究に取り組んでいます。将来はMOTの知を軸に、技術と経営、そして人の感情を繋ぐアーキテクトとして、組織と個人の変革に貢献したいと考えています。MOTで培った複雑な事象を論理的にモデル化する力は、ビジネスの現場で本質的な課題解決を行う上で、独自の強みになると確信しています。

03 VUCA時代の 新商品開発や マネジメントを研究

上海大学 外国語学部出身
博士課程期課程2回生
LI Ruochu さん

MOTへの入学動機は、学際的かつグローバルな教育スタイルに強く惹かれたことです。学部では日本語を専攻していましたが、文系的な感性に加えて、技術経営の「論理的思考」を学ぶことで、より幅広い視点から物事を分析し、研究できるようになりました。現在は、消費者行動に関する研究に取り組んでいます。具体的には、経済環境が不確実化する中で、消費者心理の変化や、商品に対して求める価値のシフトを明らかにすることを通じて、VUCA時代における企業の商品開発やマネジメントに対する示唆を提供したいと考えています。将来は、MOTで学んだ知見をより実践的に活用し、グローバル企業において、多角的な視点からマーケティング戦略を構築できる人材を目指しています。

04 MOTでの知見を 実務に活かす

フューチャーアーキテクト(株) シニアコンサルタント
博士課程前期課程2回生
及川 順子 さん

ITコンサルタントとして経営層と関わる中で、技術やサービスを基盤とする経営課題をより深く捉える必要性を感じ、現場経験に加えて理論を体系的に学ぶためMOTに進学しました。現在は、変化の激しい環境において価値を提供し続けるために必要なリーダーシップやナレッジ創発をテーマに、組織において挑戦が促されるチームの条件について研究しています。これまでに得られた知見はプロジェクトの推進やチームの対話の場に活かしており、実務での気づきを講義内のディスカッションや修士論文の検討にも還元しています。今後も顧客の変革支援と自社の組織へ一層貢献できればと考えています。

05 多文化環境で学んだ経験を 研究に活かす

立命館アジア太平洋大学 国際経営学部出身
博士課程前期課程2回生
CHEN Yu-Cheng さん

私は、技術を理解した上で経営判断のできる人材を目指しています。国際的な視点から新しいモビリティの価値を捉える必要性を感じ、文系と理系の視点を横断して学べるMOTへの進学を選びました。学部時代に多文化環境で学んだ経験は、国や文化、ユーザーごとに異なる価値観を理解する基礎となっています。現在は、水素航空機が企業価値や市場評価にどのような影響を与えるのかを分析しています。将来は、日本と台湾をつなぐ航空関連企業において、技術革新を社会実装につなげ、持続可能なモビリティの実現に貢献したいと考えています。

06 能動的な学びを通じて マネジメントに求められる知識を修得

ダイキン工業(株) 主任技師
博士課程後期課程3回生
藤本 慎一郎 さん

私は新卒で就職後、エンジニアとして働いてきましたが、40歳前後で仕事が多岐にマネジメントに変わるのを機に新たな専門を身につけるため、MOTに入学しました。研究はオープンイノベーションを対象に、仕事の中で感じた疑問や課題の解決を目指しています。MOTの博士課程前期課程を修了後、引き続き後期課程で研究を行っています。研究を進める上では自ら新たな課題を見つけ、解決のためにMOTをより深く学ぶと同時に、経済学、心理学、統計学など幅広い知識が必要となり、より能動的な学びが求められます。その様な経験が仕事の上で未知の課題への挑戦と対応力、解決力に活きています。

Faculty 実務経験豊富な教員・講師陣

青山 敦 Atsushi AOYAMA 教授 / Ph.D. (パデュー大学) (株)DataVision 代表取締役

【研究分野】 研究開発マネジメント、イノベーションマネジメント、価値の探究と創出、デジタルトランスフォーメーション、リスクマネジメント

【経歴】 三菱総合研究所、英国ロンドン大学インペリアルカレッジ研究員、東京工業大学資源化学研究所助教授

ICTの進歩には目を見張るものがあり、画像 / 音声 / テキスト / バイタルデータ / センサーデータなど多様な情報を大量 / 高速 / 安価に距離の制限なく人や機械から収集し複雑な処理を行い、人や機械にフィードバックすることが可能になりつつあります。ICTの特徴を活かし、イノベーションをシステムティックに創出しビジネスを持続可能にする方法を研究しています。ICTの社会受容性研究も行っています。たとえば、ICT活用介護サービスが事業者 / 介護者 / 高齢者 / 家族 / 地域社会に受け入れられる条件を解明しようとしています。ICTを活用してビジネスマネジメントそのものを革新する研究も行っています。計算機による自然言語処理によって企業内に存在する膨大な情報資源を高度に活用し、ICTと行動科学を組み合わせることで、企業を良い方向に誘導できると考えています。

枝川 義邦 Yoshikuni EDAGAWA 教授 / 博士(薬学、東京大学)、経営学修士(専門職、早稲田大学)

【研究分野】 人を中心とした経営システム、脳神経科学、マーケティング、人材育成、組織開発、新規事業開発

【経歴】 名古屋大学助手、早稲田大学准教授・教授、カリフォルニア大学 ロサンゼルス校客員研究員等

経営資源における「ひと」の役割は、ますます重みを増しています。他の経営資源を活かすことからイノベーションの創出を支えることまで、あらゆる場面で人の活躍が望めます。近年では、脳の働きを可視化する技術の進展が著しく、私たちの日常生活や仕事をする多くの場面で脳の活動性を計測し、その結果を解釈できるようになってきました。このような新しい技術を活用し、経営学や経営工学、脳神経科学・生理学、認知科学など、歴史を重ねる複数の研究分野を融合させた多層的なアプローチをすることで、世の中をシステムとして捉え、その一場面を解釈し、社会に活かすための研究をしています。様々な分野への興味を持ち、それらを融合させ、ものごとの解明や実社会での展開について学術的なアプローチを進めることに興味をお持ちの方を歓迎しています。

大澤 潤 Jun OSAWA 准教授 / 博士(システムエンジニアリング学、慶應義塾大学)

【研究分野】 技術経済性・環境性評価、消費者嗜好・意思決定分析、システム最適化・シミュレーション、エネルギー・モビリティ

【経歴】 三菱UFJリサーチ&コンサルティング、野村総合研究所、金沢工業大学情報デザイン学部講師

先進的な技術・仕組みの導入評価と設計・運用の最適化をテーマに研究に取り組んでいます。新しい技術や仕組みの普及・定着には、単体性能の高さはもちろん、消費者の嗜好に合うか、社会にどのような便益をもたらすかなど、技術・消費者・社会という複数のレイヤーで障壁を超える必要があります。私は、主にエネルギーシステム(再エネ、水素、スマートグリッド等)や次世代自動車(電気自動車、自動運転車等)を対象に、経済性・環境性評価、消費者受容性の分析、システム設計・運用の最適化を行っています。皆さんには、問題意識を大切にしつつ、データやモデルの分析を通じ、スマートかつサステナブルな社会の実現に向けた意思決定に役立つ研究に取り組んでほしいと思っています。技術・人・社会の接点に関心を持ち、共に探索できる学生を歓迎します。

小田 哲明 Tetsuaki ODA 教授 / 博士(医学、東京慈恵会医科大学)、博士(工学、東京大学)、弁理士

【研究分野】 知財戦略、知財マネジメント、医療福祉

【経歴】 フィネガン法律事務所(米国)、スタンフォード大学APARC客員研究員、大阪大学工学研究科特任准教授、東京大学未来ビジョン研究センター特任准教授

専門分野は、知財マネジメント、地域ブランド、ウェル・エイジングです。「知的財産(特許)を活用した経営戦略」として、企業の知的財産活動について研究しています。①ケーススタディを中心とした特許・デザイン・ブランド戦略分析、②データ解析による知的財産評価、③地域ブランドの活性化、④産学連携などについて研究しています。知的財産にはデザイン・ブランドも含まれ、とても身近なものです。また、近年はウェル・エイジングの研究にも取り組んでいます。企業経営や高齢化社会において健康維持を図ることは、人生100年時代の到来により注目されている分野です。企業の戦略や健康データを分析できる柔軟かつ学習熱心な学生、企業へのインタビューを行える積極的な学生を希望します。

蔵本 薫 Kaoru KURAMOTO 准教授 / 博士(経営工学、早稲田大学)

【研究分野】 経営工学、統計科学、知能情報学、ビジネスアナリティクス

【経歴】 早稲田大学創造理工学部経営システム工学科助手、青山学院大学理工学部経営システム工学科助教

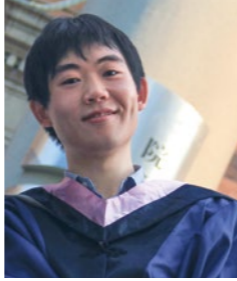
技術と経営の架け橋として、企業や社会の課題を実証的に分析し、戦略的意思決定の支援を行う研究を展開しています。特に、AIやIoT、ビッグデータ解析といった先端技術を活用し、企業の経営情報(POSデータ、広告データ、テキストデータ等)を用いたマーケティング分析研究が最近の研究テーマです。取り扱いが容易な形で記述された数理モデル上で理論をどう展開するか、と同時に現実問題や課題を如何にうまく整理・モデル化して解決へと結び付けるか、その双方が必要と考え研究を行います。学生には、理論と実践を融合させた学際的な教育を提供し、実世界の課題に対応できる専門性とスキルを育成します。最新のツールを用いたデータ解析の経験を通じ、研究成果を実社会で活かす道を切り開いていきましょう。特に論理思考力と主体性のある学生を希望します。

黄 巍 Wei HUANG 准教授 / 博士(経営学、東京大学)

【研究分野】 製品開発論、イノベーション・マネジメント、ものづくり経営

【経歴】 東京大学経済学研究科特任助教、特任研究員

研究分野は製品開発論、イノベーション・マネジメント、ものづくり経営です。これまでは継続的な開発活動の特徴とする製品・産業における効果的な開発パターンについて調査・研究を進めてきました。現在はデータ(開発プロジェクトデータと産業データ)解析によるゲーム産業の開発活動に関する実証研究、ICTを活用した組織課題の可視化、ものづくり現場データの集約・連携について研究しています。当研究室は事例研究、統計分析及びマルチエージェント・シミュレーションなどの手法を用いて技術経営に関する研究を幅広く行っています。論理的思考能力及び実証研究能力の構築に粘り強く取り組み、主体的に学ぶ学生を希望します。



澤口 学 Manabu SAWAGUCHI 教授 / 博士(工学、早稲田大学)

【研究分野】 次世代商品企画に着目したPBL、イノベーションパターン研究、価値創造工学メソッド、デザイン思考型リスク管理

【経歴】 鉄鋼系大手商社、産業能率大学教授、早稲田大学創造理工学研究科経営デザイン専攻教授、東北大学工学研究科客員教授等

研究分野は「社会マクロ環境と技術進化の最適化に基づく次世代商品企画やこれらに着目したPBL教育の在り方」や「新興国と日本の協同による持続可能な価値創造工学メソッドの研究」を主な研究テーマとしております。これらは常に企業との連携も視野に入れて理論と実践の両立を目指します。また本格的なAI時代を見据えて「AIとの協同を意識しつつ“働きがい(学びがい)”の維持・向上が可能なモノ・コトづくりアプローチ」や「デザイン思考に着目した創造的リスクマネジメント」、また生成AIの台頭する現在社会を意識した「“不利益(Benefit of inconvenient)”概念に基づくユニークなデザインメソッド」の研究にも挑戦しております。これらの研究に興味を抱いた学生は大いに歓迎いたします。最近の著書:「製造業のためのプロダクトマネジメント(共著)」「科学情報出版」、「不利益の実装(共著)」「近代科学者Digital」、「はじめての企画・開発メソッド(単著)」「(同友館)等多数

田中 邦明 Kuniaki TANAKA 教授 / 博士(工学、法政大学)、経営学修士(専門職、同志社大学)

【研究分野】 生産戦略、生産システム、サプライチェーンマネジメント、製造基幹人材育成

【経歴】 オムロン(株)ものづくり革新本部生産技術センタ長、オムロングループ海外子会社(Malaysia・China)、(一財)Lean MONOZUKURI Network Japan

グローバルでの急激な環境変化は製造企業に大きな変革を求めています。日本の製造企業が再びグローバル競争力を獲得するには、これまで培ってきた現場中心のものづくり競争力を磨き続けることに加えて、IoT/ロボット/AIなどの新技術を取込んだスマートファクトリーに代表される新しいものづくりシステムの構築が解決策の一つになります。日本のみならず、中国、タイ、インドネシアなどの製造企業との協業を通じて、実際の具体的課題を踏まえながら、革新的コンセプトの提言や方策に関する研究を行います。ものづくりに興味や課題認識を持っている皆さん、革新的なものづくりコンセプトを構想する力を養い、その実現に向けたマネジメント力や人間力を磨きあげることで、ものづくりを牽引するグローバル人材としての活躍を目指していきましょう。

名取 隆 Takashi NATORI 教授 / 博士(工学、東北大学)

【研究分野】 技術経営、中堅中小・ベンチャー企業論、技術マーケティング、新製品・新事業開発、オープンイノベーション、競争戦略、中小企業支援育成政策

【経歴】 日本開発銀行(現日本政策投資銀行)

私は中堅中小・ベンチャー企業を対象に、イノベーション創出(新製品・新事業開発、オープンイノベーションを含む)、技術マーケティングなどを研究してきました。金融機関に約30年勤務し金融の実務知識と多くの業界の審査・調査経験があるため多様なテーマの指導が可能です。名取ゼミの学生は研究テーマを自由に選択し、分野も多方面に亘り、マーケティング、イノベーションの普及、新製品・新事業開発の分野が従来は多く、近年ではスマホを用いたネットビジネス関連のテーマが増えています。研究方法は、アンケートデータ等の統計分析による定量分析と、事例分析等による定性分析のどちらも指導しています。皆さんにはユニークで挑戦的な研究を期待しています。なお近年のトピックとして、名取ゼミから数社のスタートアップも輩出しています。

西之坊 穂 Minoru NISHINOBO 教授 / 博士(経営学、大阪府立大学)

【研究分野】 組織行動論、人的資源管理論、看護管理、経営学、人材育成

【経歴】 日立システムズ、ドウシシャ・人事企画部長、摂南大学経営学部准教授、シンガポール国立大学客員研究員等

組織の成果は、制度や技術だけでなく、人の行動や関係性によって大きく左右されます。民間企業3社で人事部門に勤務した経験を通じて、そのことを強く実感し、理論と実践の架け橋となる人材を志して大学教員になりました。これまで企業や医療組織を対象に、人と組織の関係性が成果に及ぼす影響を研究してきました。特に、リーダーシップとフォロワーシップの相互作用や、専門職が協働する組織のマネジメントに関心を持っています。皆さんと共に、現場と理論を往復しながら、実践に耐えるマネジメントを探究していきたいと考えています。

湊 宣明 Nobuaki MINATO 教授 / 博士(システムエンジニアリング学、慶應義塾大学)

【研究分野】 技術経営学、デザイン科学、システム・ダイナミクス、宇宙・航空イノベーション

【経歴】 宇宙航空研究開発機構、慶應義塾大学助教、特任准教授、シンガポール国立大学客員研究員

宇宙航空研究開発機構(JAXA)での実務経験を基に、技術経営およびシステム工学の視点から研究・教育を行っています。湊研究室(Systems Innovation Laboratory)は、システムとして持続可能なイノベーション創出を目的に、宇宙・航空分野で培われたシステム設計・マネジメントの方法論を基盤として研究を進めています。特に、システムダイナミクスを用いて、複雑な技術・社会システムの構造分析、将来予測、政策・戦略評価を行うことを専門としています。不確実性の高い事業環境において、現場経験を理論的・構造的に整理し、将来を見据えた戦略的意思決定へとつなげる力を、研究を通じて養います。企業における幹部候補の育成や、長期的視点に立った事業構想力の強化にも適した研究・教育環境です。

横田 修一 Shuichi YOKOTA 准教授 / 博士(技術経営、立命館大学)

【研究分野】 ITマネジメント、IT組織、情報システム、研究開発、イノベーション・マネジメント

【経歴】 パナソニック(株)情報セキュリティ部総括、パナソニックインフォメーションシステムズ(株)(現 パナソニックデジタル(株))ICTソリューション事業部長、大阪経済法科大学経営学部客員教授

ITは今や、ビジネスルールを変え、社会を動かす最大の原動力です。ですが、優れた技術も、組織に深く根ざした「活用能力」が伴わなければ、その真価を発揮できません。私の研究は、企業がITをいかに価値へと変換できるかという「IT活用能力(ケイパビリティ)」の探求にあります。生成AIやクラウドコンピューティングが企業組織に与える影響、組織文化がIT活用能力に与える影響などから、IT活用能力を高める研究しています。また、企業の研究開発マネジメントのあり方、イノベーション創出にも興味を持っています。私の使命は、実務と学問を繋ぐ「架け橋」となることです。MOTでの学びの核心は、既存の枠を超えた知の探求にあります。単なる「技術者」ではなく、技術を武器に新たな価値を創出し、共に未来を切り拓く熱意ある学生を待っています。

【ゲストスピーカー】 現場の第一線で活躍する実務家や国内外の一流企業および最先端研究機関から招聘しています。(過年度実績 順不同・敬称略)

- 小野寺 寛 三菱UFJリサーチ&コンサルティング(株)エグゼクティブディレクター
- 大久保 寛基 東京都市大学デザイン・データ科学部教授
- 倉岡 清志 日鉄ソリューションズ(株)ITS&E事業本部 / DM事業部 / DENG2 GL
- 森 秀樹 コトソリューションズ(株)代表取締役
- 石川 浩 持田製薬(株)事業開発本部弁理士
- 川下 晴久 日本トランスシティ(株)顧問
- 田中 伸生 横河電機(株)マーケティング本部 知的財産・デザインセンターセンター長
- 岡田 真人 東京大学大学院新領域創成科学研究科教授
- 織田 昌雄 立命館大学デザイン科学研究所上席研究員

※教員情報は、2026年5月現在

Information

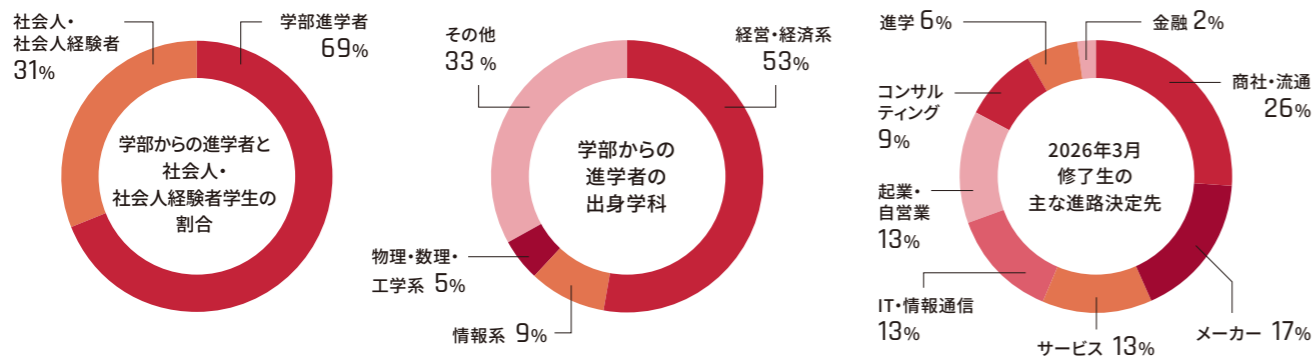
主な内定先・就職先一覧

※過去の修了生を含む

- (株)アイシン
- アクセンチュア(株)
- 旭化成(株)
- アビームコンサルティング(株)
- (株)イシダ
- EYストラテジー・アンド・コンサルティング(株)
- NTTコミュニケーションズ(株)
- オムロン(株)
- キヤノン(株)
- キュービー(株)
- (株)キーエンス
- KDDI(株)
- 塩野義製薬(株)
- (株)資生堂
- (株)島津製作所
- シャープ(株)
- ジョンソン・エンド・ジョンソングループ Sky(株)
- 住友電気工業(株)
- (株)セブン・イレブン・ジャパン
- ソフトバンク(株)
- (株)電通デジタル
- 東京ガス(株)
- 東芝デバイス&ストレージ(株)
- トヨタ自動車(株)
- 日亜化学工業(株)
- ニチコン(株)
- 日東電工(株)
- 日本アイ・ビー・エム(株)
- 日本タタ・コンサルタンシー・サービス(株)
- (株)野村総合研究所
- (株)博報堂プロダクツ
- パナソニックコネクツ(株)
- (株)日立製作所
- 富士通(株)
- (株)船井総合研究所
- (株)ペイカレント・コンサルティング
- 本田技研工業(株)
- みずほリサーチ&テクノロジー(株)
- 三菱商事(株)
- 三菱電機(株)
- (株)三菱UFJ銀行
- 三菱UFJモルガン・スタンレー証券(株)
- (株)村田製作所
- LINEヤフー(株)
- ヤマハ発動機(株)
- ヤンマーホールディングス(株)
- ユニ・チャーム(株)
- 楽天(株)
- ローム(株)

学生の構成

※端数処理の関係で100%にならない場合があります。



奨学金・研究助成制度

(詳細は入学試験要項)

1 立命館大学独自の奨学金・研究助成

1年次対象成績優秀者奨学金、2年次対象成績優秀者奨学金、学生会奨学金、英語論文投稿支援補助金、ティーチング・アシスタント(TA)等

2 学外機関による奨学金・支援制度等

日本学生支援機構大学院奨学金、民間財団・地方公共団体奨学金、日本学術振興会特別研究員制度等

RIMOT(立命館大学大学院テクノロジー・マネジメント研究科校友会)

RIMOT(立命館大学大学院テクノロジー・マネジメント研究科校友会)が、修了生ばかりでなく在学生もともに学ぶことができる「知識創造の場」を提供します。1,000名以上のメンバーを持つRIMOTのネットワークは、必ずあなたに価値をもたらします。

修了後は“Re”MOTできます。

今井 雄基 さん

2013年3月博士課程前期課程修了/ネットワンシステムズ(株)(ネットワンパートナーズ(株))に就任

RIMOTは立命館MOTの修了生を中心とした校友会組織です。技術経営を共に学んだ同窓生に対して、各種イベント(勉強会・ワークショップ・懇親会・同窓会等)を企画・運営しています。私は学部卒業後すぐに立命館MOTへ進学しましたが、その価値を実感したのは社会人になってからでした。RIMOTの活動に参画して10年以上経ちますが、RIMOTメンバーを始め、現役学生や教授、外部講師の方々など、MOTを共通のキーワードとしながらも、様々な価値観を持った人との出会いが私の社会人人生を支えてくれています。修了後の活躍の舞台は全国・世界へと広がりますが、貴方がMOTに触れる機会はより一層増えていくことでしょう。RIMOTはこれからもMOTを究めている場所を提供していきます。



入学試験情報

博士課程前期課程の入学時期は年2回(4月、9月)、2026年度に入学試験は3回実施します。

学期の始まりが9月の留学生の方や、転勤の可能性などで直前まで出願を決められない社会人の方が9月入学試験を受験されています。

博士課程後期課程の入学時期は年2回(4月、9月)、入学試験は日本語基準、英語基準、それぞれ年2回ずつ実施します。

博士課程前期課程(修士課程)

[入学定員] 70名 [標準修業年限] 2年 [入学時期] 4月・9月 [学位名称] 修士(技術経営)

2026年9月入学 入学試験日程

入試実施月	入試方式	出願	試験	合格発表
7月	一般/社会人/外国人留学生(RJ方式) APU特別受入	2026年5月28日(木)~ 6月11日(木)	7月5日(日)	7月16日(木)

2027年4月入学 入学試験日程

入試実施月	入試方式	出願	試験	合格発表
7月	学内進学/一般/社会人 外国人留学生(RJ方式)/飛び級/APU特別受入	2026年5月28日(木) ~6月11日(木)	7月5日(日)	7月16日(木)
11月	学内進学/一般/社会人 外国人留学生(RJ方式)/飛び級/APU特別受入	2026年10月8日(木) ~10月22日(木)	11月15日(日)	12月3日(木)
2月	学内進学/一般/社会人 外国人留学生(RJ方式)/飛び級/APU特別受入 理工2年次転入学/情報理工2年次転入学 生命科学2年次転入学	2027年1月7日(木) ~1月21日(木)	2月13日(土)	2月25日(木)

博士課程後期課程(博士課程)

[入学定員] 10名 [標準修業年限] 3年 [入学時期] 4月・9月 [学位名称] 博士(技術経営)

2026年9月入学 入学試験日程

入試実施月	入試方式	出願	試験	合格発表
6月	一般(英語基準)	2026年4月16日(木)~5月7日(木)	別途連絡	6月18日(木)
7月	一般(日本語基準)	2026年5月28日(木)~6月11日(木)	7月5日(日)	7月16日(木)

2027年4月入学 入学試験日程

入試実施月	入試方式	出願	試験	合格発表
11月	一般(英語基準)	2026年10月8日(木)~10月22日(木)	別途連絡	12月3日(木)
2月	一般(日本語基準)	2027年1月7日(木)~1月21日(木)	2月13日(土)	2月25日(木)

選考方法

※詳細は入学試験要項でご確認ください。

博士課程前期課程

[一般・飛び級・外国人留学生(RJ方式)]

小論文、面接

[学内進学・社会人・APU・転入学]

書類選考、面接

博士課程後期課程

[一般(日本語基準)]

書類選考、面接試験、論文試験(修士論文あるいはそれと同等の著作物、および研究計画書をもって論文試験にあて、面接試験で試問を実施)

[一般(英語基準)]

書類選考、面接試験または電話等でのインタビュー(英語で実施)